

幸せになる生き方の陥穽

龍谷大学社会学部准教授 川中 大輔

「幸せになること」そのものを否定する人はいないだろう。多くの人々が「幸せになりたい」と願うことも当然のことだろう。しかし、「わたし」が幸せになる生き方を追求する中で、私たちはいくつかの陥穽に嵌まる可能性がある（斉藤 2010: 243）。例えば、自らの幸せな生活に閉じていき、自らと縁遠く感じられる他者への関心を喪失することがある。その中で、生きづらさを抱えさせられている人々に心を寄せなくなることもある。また、自らの幸せな生活を実現するために生み出されてしまっている社会問題に目が向かなくなることもある。仮に心を寄せたり目を向けたりしても、それは一時的なことで、自らの生活様式を転換させることなく、傍観者という加害者の位置に止まってしまうことも少なくない。

「わたし」が幸せになることが問題なのではない。認識と関心とを自己の幸せな世界の内に閉じることが問題なのである。仮に閉じかけていく時、そのことを自覚して、開いていく努力／工夫が重ねられているのかが問われることになる。その努力／工夫は個人的なものに限らない。小さくされた人々からの呼びかけの声によって、閉じつつある世界がこじ開けられるのであれば、そうした声が響き渡りやすい環境や「わたくし的な付き合いを持つ」（鶴見 2024: 260）ことを支える環境を社会的に整えることも含まれる。この「閉じる／開く」の往復運動は、現代社会の不幸を背負わされている知人・友人と共に幸せになりたいという望みを「わたし」の内に形成することになる。

この望みを内に抱いて社会を見渡せば、幸せに生きるために必要となる資源へのアクセスの違いから私たちの生が階層化されている現実と向き合わざるを得なくなる（プラマー 2021: 360-361）（表 1）。人権意識に裏付けされた真に共生的な社会を創成するためには、自己に責任のない不条理な苦痛を滅殺していく創造的な苦闘を引き受ける人間の存在が求められる（市井 1971: 147-148）。その創造的苦闘を喜びとし、自らの幸せに位置づける人間がいかに増えるのかは現代的課題の一つと言えよう。

こうした問題意識のもと、「誰一人取り残されない社会」という旗標を掲げ、全ての人が幸せを手にすることを目指すことに大きな異論はないだろう。しかし、その実現は容易なことではない。なぜならば、自らの幸せな生き方の追求が、意図せざる結果として他者の不幸の増幅や環境問題の深刻化につながってしまうことがあるからである。このことを認識する時、自己のあり方が厳しく深く問われることになる。この審問に多くの人々は〈ためらい〉を覚え、「含羞なき正義」から距離をとるようになる（林 2013: 124-125）。このことは決して批判される動きではない。社会不正義に抗いきれない不完全さを教条主義的に指弾することになれば、「わたし」の幸せが脅かされていくからである。それ故に〈ためらい〉を伴いながら、自他の幸せをどのように調停していくのかを日常生活の中で探っていくことになる。その探究の現在地から自らの態度を反省的に捉え直していくことで、幸せになる生き方の陥穽に嵌まらずに、自らの幸せを追求することが可能となるだろう。私たちは毎日毎時、問う存在／問われる存在として、自己と他者と社会と正対し、よき行いによって応答していくことが求められている。

参考文献

- 市井三郎, 1971, 『歴史の進歩とは何か』岩波書店。
 斉藤道雄, 2010, 『治りませんように—べてるの家のいま』みすず書房。
 鶴見俊輔（木村哲也編）, 2024, 『内にある声と遠い声—鶴見俊輔ハンセン病論集』青土社。
 林忠良, 2013, 『〈生かさされ〉つつ〈生きる〉—よく生きる知恵：断章98』関西学院大学出版会。
 プラマー, ケン.（赤川学監訳）, 2021, 『21世紀を生きるための社会学の教科書』筑摩書房。

表1 階層化された生につながる資源

経済的資源 (経済資本)	あなたはどの程度の収入、富、金融資産、遺産へアクセスできるか。仕事からの収入はどの程度あなたのニーズを充足するか。
社会的資源 (社会関係資本)	あなたは家庭、友人、コミュニティ、ネットワークからの程度の支援を得られるか。あなたのネットワークはどのようなものか。あなたの知り合いは誰か。
文化的資源 (文化資本)	あなたは、あなたの社会における知識・情報・技能・教育への程度アクセスできているか。これはまた今日、デジタル資源—デジタル・コミュニケーションの技能—へのアクセスも含むものである。（時がたつにつれ、そのような「技能」は資格や自己感覚を通じて、その人の存在の一部として感じられる。「身に染み込」ものとなる）
象徴的資源 (象徴資本)	あなたは、あなたに正当性と承認を与え、他の人よりもあなたを生を優先する人々への程度アクセスできているか。
政治的資源	あなたは自分の生活においてどの程度の自主性を有しているか。あなたは一日の大半をコントロールできるか。それとも他者がそれをコントロールしているか。
個人的資源	あなたに固有の人生とライフストーリー—どの程度、あなたが案に世界を動き回れるようにしてくれる個人的技能を生み出すのに役立っているか。

出典：プラマー（2021: 361）